

令和4年3月17日実施分

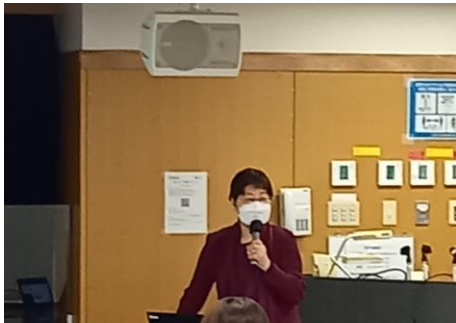
令和3年度 家庭教育充実促進事業

「発達がゆっくりの子のための入学準備」

②お子さんのこまっていることへの対策を考えましょう

講師：西岡 有香さん

(大阪医科薬科大学LDセンター 言語聴覚士 特別支援教育士 SV)



♪こんなことをお話いただきました♪

- ・第1回の講座を受けて受講者の方に「フィードバック用シート」を配付し、子どもさんのことで不安に思われている点をお書きいただきました。それに対する答えをまじえながらすすめました。



【身体・運動面への取組】

★粗大運動（姿勢の保持や移動運動などを代表とした運動、全身を大きく動かす運動）ではスイミング、体操教室などのお稽古事、放課後デイでの理学療法士による療育、家族でのボルタリング、朝のランニングなどが有効です。放課後デイを考えられる人は多いと思いますが、現状では様々で合う合わないがあるので、よく調べて選びましょう。スポーツについては、サッカーなど集団競技はルール理解が難しいことがあるので、一対一でできるものがよいでしょう。巧緻性を養うにはピアノなどの楽器やお手伝いも有効でしょう。お稽古事は、指導者が子どもの特徴を理解してくれる先生を、そして本人の好きなものを選ぶことです。決まった大人がその子に長く関わることができる（学校は担任の先生が1年ごとかわる）ことには意味があるので、お稽古事をするのはよいと思います。子どもがその習い事が好きならば、送り迎えや先生との交渉など保護者側にとって少々たいへんだとしても、得意なことを作ってあげることに繋がります。石の上にも三年で、「得意はつくる」と思って、ぜひ前向きに考えてみてください。

【巧緻性を育てる】

★お手伝いの中には、例えば、いちごのへた取り、豆をさやから出す、液体をコップに入れる、餃子を包む、クッキーの型抜き、洗濯ばさみを外したりとめたり、など、巧緻性を身に付けることのできるものが沢山あります。これは自分の作った料理だ、というような達成感や家族を助ける喜びを経験できる非常によい機会なので、ぜひ参加してもらいましょう。

【文房具の工夫】

★学校ではいろいろな文房具を使いますが、みんなと同じものを使ってがんばらせるというのではなく、いろいろと良い文房具が出ているので（目盛りのわかりやすい定規、円の描きやすいキャップ付きコンパスなど）、子どもの様子を見てどんどん活用すればよいでしょう。みんなと同じものを使いたいという子どものプライドもありますので、それを尊重することも大事ですが、みんなと違った道具を使っても目的を達成でき、「できるやん」という気持ちを1年生から持てれば

その後により影響を持つことができます。

【学習について】

★「ことば」についてですが、「大人が子どもにあわせる」ということが大事です。大人のことばかけは、雑音のないところで、子どもにむきあって、子どもに理解できる明瞭さ、速さ、長さで、今の場面に関係していることを具体的に話しましょう。語彙を増やす取り組みでは、いろいろなワークブックもありますのでそれを利用するのもよし、その他、「なぞなぞ」「ことば集め」などの言葉遊びもよいでしょう。「なぞなぞ」は問題を聞き取ってあてはまる答えを想起する練習にもなりますし、「ヒントをお願いします」という言い方を教えることが、SOS の出し方の練習にもつながります。

【インリアルの技法】

★セルフトーク（大人が自分自身の行動や気持ちを言語化する。いっしょに砂遊びをしているときに「お母さんもジャー。きれい！」）、リフレクティング（子どもの発音や文法の間違いを、大人が正しく言い直して聞かせる）、モデリング（無言でおもちゃを取ったら「おもちゃとってください、って言ったらいいよ」と子どもにモデルを示す）などの手法があります。取り入れると子どもの言葉の力やソーシャルスキルの向上につながるでしょう。

【読みや書きについて】

★音韻意識を育てる→単語はいくつの音からできているか答える、単語を反対から言う、○（か等の音）で始まる言葉を考える、などの言葉遊びからその力を育てます。
★最近さまざまな音声教材や読み上げ教科書が出ているので使ってみるのもよいでしょう。



【ことばの発達を与える影響】

★気持ちや説明をことばでできないと手が出るなど、行動で表すこととなります。友だちや先生の言っていることがわからないと学校生活でのいろいろな場面で参加しないことにつながりやすく、結果的に自分の世界で遊ぶことになり、それが、大人の目には「勝手なことをする」とうつってしまいます。本人からすれば先に相手からなんらかのことをされているのに、うまく言えないため手が出るわけで、それは不本意なことです。言葉を使えるようになり、自分の感情について説明できるようになると「問題」と思っている行動が減ります。
★語彙力を増やす取り組みをがんばりましょう。絵本は子どもが読んでほしいといえれば読んであげましょう。時々、「○○って何だった？」と内容や言葉の意味について質問する、お風呂にいっしょに入っているとき身体の部分の名前を確認したり、お手伝いの場で動作を添えて（干す、取り込む、切る、豆をさやから出す、2つずつ配る等）言葉かけするなど。語彙力が増せば、読む力や言葉で表現する力を伸ばすことにつながります。また、口を大きく開けて話すということをはげめると、話すスピードもゆっくりになり、明瞭さが増し、人に伝わりやすくなります。
★家庭での遊びやいろいろな場面で「貸して」「あとで」「返して」「待って」「いれて」「やめて」という言葉をどの場面でどう使うかを練習すれば、子どもの学校や生活で役立つでしょう。きょうだいがいれば、きょうだい間で練習してみてもいいでしょう。
★指示が禁止形だと子どもは「ではどうすればよいのだろう」と混乱します。例えば「走ってはだ

め」ではなく「右側を歩きます」と指示してあげましょう。ほか、「お口で言って」「そっと置いて」など「してほしいこと」を伝える言葉かけをしましょう。

【その他】

- ★自閉症スペクトラムについては、親戚や配偶者が理解できていない場合も多々あります。診断書があればそれを見せてもいいし、「がんばればできる」というものではないことを理解してもらいましょう。制服や給食など感覚過敏や感覚鈍麻からどうしても受け付けられない子どももいるので、感覚の問題がある場合には、無理強いをせず、理解と配慮が必要です。
- ★「感情のコントロール」もモデルとして示すといいでしょう。たとえば ASD（自閉症スペクトラム）の子どもはこだわりが強く、100%でないことと承知しないことがあります。99%以下であっても「まあ、いいか」というおまじないの言葉を使って、気持ちのコントロールをするのもひとつです。とりかえしのつかないということはないのだ、ということを保護者がモデルとして示すことで子どもは学ぶでしょう。
- ★必要以上に子どもに怒ってしまうという悩みをお持ちの保護者の方は「ペアレントトレーニング」という子どものほめ方、伝え方、困った行動への対応を保護者が学ぶスキルについての講習を受けてみることも考えましょう。意識するだけで随分子どもへの接し方が変わります。
- ★保護者自身が正しい知識や情報を学び、子どもの成長に役立て、身近なところで相談できる人を探すということが必要とされます。保護者自身がソーシャルスキルを磨くことが必要です。

♡アンケートより♡

- ・子どもの就学にあたり不安だらけでしたがわかりやすいお話を聞いて少し心が軽くなりました。
- ・子どもとの話し方の意識が変わりました。
- ・子どもの発達に悩み続けてここまで育ててきて「自分が一番理解している！」と思ってしまうところがありますが、今の子どものできているところ、できないところを客観的に見ようと思いました。
- ・具体的なものがこのタイミングで分かって良かった。
- ・今まで自分の子どもができなかった理由が少し理解できた気がしました。自分の伝え方や表現の仕方に問題があったのだと知ることができてよかったです。
- ・情報満載でとても楽しく勉強させていただきました。
- ・小学校の支援がどこまで受けれるのか不安でした。「将来本当に必要なのか？」どこにポイントを置くのか親もしっかり学び学校に話したいと思います。
- ・とても分かりやすく勉強になりました。
- ・子どもの入学後に起こり得る問題を先に聞くことで対応がしやすくなったと思います。不安がかなり解消されました。
- ・具体例も多くて、盲点だったことをたくさん発見できました。
- ・とてもためになる内容だったので、来ることができなかった方にも見ていただけるようにしてほしい。
- ・実践できそうなものを多くご紹介してくださったのでよかったです。